

二 ビデオ鑑賞—医跡めぐり—
「維新の夜明けとともに」福岡県（八分）

三 ソヴェトの医学史書から

岡田 靖雄

二月例会 平成元年二月二十五日（土）

順天堂大学医学部九号館一番教室

一 わが国の顎顔面補綴のはじまり

新藤 恵久

二 ビデオ鑑賞—医跡めぐり—

「解剖事初め・山脇東洋」京都府（九分）
梶田 昭

三 旧約聖書の医学用語について

順天堂大学医学部九号館一番教室

三月例会 平成元年三月二十五日（土）

一 宮城県の女医・山崎富子の活動について

高橋みや子

二 奈良時代の医療の実態

杉田 暉道

三 明治初期静岡県の病理解剖の状況

土屋 重朗

四月例会 平成元年四月十五日（土）

順天堂大学医学部九号館一番教室

一 前野蘭化の自画自賛図について

木村陽二郎

二 江戸幕府における鍼科と盲人

香取 俊光

例会抄録

ソヴェトの医学史書から

—『医学の象徴』ほか—

岡田 靖雄

わたしは医学史面では、ソヴェトの精神医学史、条件反射学説史をおっていて、医学史全般には目をむけていない。だが、医学史博物館はいくつかあり、精神科関係雑誌でも歴史についての論文がある程度のっている点からみて、ソヴェトでは、すくなくとも日本におけるよりは医学史が重視されていることはたしかである。今回、一般医学史の著書二冊を入手したので、それを紹介した。

一 タチャナ・セルゲーエヴァ・ソロキナ著『医学史アトラス 近世（一六四〇～一九一七）（一九八七年）』これは古代篇、中世篇に続くもので、四冊の企画とおもわれる。まえの二冊はみていない。ほぼA五判で一六八ページ、二二七図。序説、解剖学、病理解剖学、組織学、胎生学、一般生物学、遺伝学、微生物学、生理学・実験医学、内科疾患、産科学・婦人科学・小児科学、感染症・疫学、精神医学、外科学、衛生学・社会医学の項目にわけて、主要な人物とその業績を、写真・図を中心に紹介している。一時期ソヴェトにあった排外的自国中心主義はみられない。安価な本で、医学史の普及をはかるには、日本でもまねてよい。

うにおもった。

二 ヴァンリー・ミハイロヴィチ・タラソノフ著『古代諸民族の治療の反映としての医学の象徴』(一九八五年)。医学の紋章の歴史的背景をさぐっている本で、A五判一九九ページ。現在のイランで発見されルーヴル博物館に蔵されているグデアの酒盃(ラガンの王グデアが治療神ニンギンジダにささげた)について、まづくわしく論じている。この酒盃には二匹の蛇がからみついた木(カデュセウス)がはられて(現在カデュセウスはヘルメスの杖で、医学の紋章とは別物とされている)。蛇は天と地をつなぐもの、水をもたらすもので、実り、豊かさ、生と死、よみがえりなどを象徴する。こういう広義において、グデアの酒盃におけるカデュセウスは医学を象徴していた。この蛇には知恵、商才などの意味もくわり、その面をとりだしたのがヘルメスの杖である。アスクレピオスの杖では、自然の治癒力の一部分としてあつたものが治療技術として人間のものとなつたことがしめされている。このあとも医学の象徴はいくつか提示されたが、技術化の段階をしめすものとして、アスクレピオスの杖が医学の象徴としてもっともふさわしい。

タラソノフの本はこのように、古代文明史、民俗学、宗教学などのひろい成果にたつて医学の象徴を論じている。時あたかも巳年、憑きもの関係でも蛇の問題はおおきい。タラソノフの本は翻訳したいぐらいにおもしろいが、関連事項がひろすぎて手におえないが、なんらかの形でくわしく紹介したい。

(平成元年一月例会)

旧約聖書の医学用語について

梶田 昭

分節化と名づけは、人間が対象を理解する基本の方法である。体の内景の区切り、名づけが解剖学、病気の区切り、名づけが疾病学(ノソグラフィ)である。諸民族は、それぞれの分節・名づけの体系をその言語としてもっている。(拙稿「記号論としての病理学」『東女医大誌』五七巻、一四一五頁、一九八七)。

旧約聖書はセム系言語で書かれた。医学用語もヘブライ人の思考様式を反映したものであつたらう。ギリシア語、ラテン語をはじめ、近代の世界諸語に訳されて行つたとき、そのつど異種に分節体系に遭遇し、言葉の移しかえはコノテーションの移動を伴つたはずである。

レビ記三章四節他の「肝臓の尾状葉」(新共同訳)、申命記二八章二七節の「壊血病」(口語訳)、サムエル記上五〜六章にいう「アシドド人の腫物」、レビ記十三章の「らい病」を例にとつて論じた。

(平成元年二月例会)

奈良時代の医療の実態

杉田 暉道

奈良時代は仏教文化がおおいに栄えたので、これに伴いわが国